

「宇部市本庁舎建設基本計画(素案)」市民説明会【会議録】

日 時 平成 28 年 7 月 12 日 (火) 18 : 30 ~ 19 : 20
場 所 船木ふれあいセンター

- 1 「うべの情報 知っちょる会」について (~18:35)
- 2 「宇部市本庁舎建設基本計画 (素案)」について (~19:10)
- 3 質疑応答 (~19:20) ※以下、要約

【市 民】 今の駐車場は市役所本庁舎と比べて少し地盤が低いと思うが、A パターンの配置になった場合、地盤は今の庁舎と同じ高さとなるのか。また南海トラフ地震の津波に対する想定プロセスを合わせて聞きたい。

【市】 新庁舎の地盤高については、現時点では未定。基本設計で検討していく。
南海トラフ地震発生時の津波の想定については、平成 25 年 12 月に県が作成した「山口県瀬戸内海沿岸における津波浸水想定」の発表から、浸水被害はないと考えている。ただし、高潮による浸水は、発生の確率が 500 年に 1 回程度となる最大規模のケースで、宇部空港の潮位が 5.44m と想定され、現庁舎の地盤高が 4.7m なので、現庁舎の位置であれば約 70cm の浸水ということになる。発生確率は低いですが、浸水が起きた場合に備え、必要な機能を 2 階以上に配置するなどを基本設計で検討していく。

【市 民】 工事期間中、市民サービスをどのように、どこで確保するのか。ゾーニングイメージでも、現庁舎位置に新庁舎を建てない場合は現庁舎を利用しながらの工事でも可能と思うが、それ以外の場合の説明がなかった。
もうひとつは、市民活動機能については、市民センターや図書館にそういった機能はあるはずだが、本庁舎につくる必要があるのか。

【市】 工事期間中の市役所機能について、A パターンでは、現駐車場部分に建設するため、現庁舎を活かしながら施工し、新庁舎完成後に引っ越す。しかし、駐車場は別に確保する必要がある。1 番デメリットのある C パターンでは、現庁舎位置に建設するため、まず現庁舎を解体する必要がある。そのため、仮設庁舎の建設又は空きビル等の利用により庁舎機能を仮移転して新庁舎を建設することとなるので、市民に支障をきたすことになると考えている。
2 点目の市民活動支援機能については、これまでに行った市民ワークショップなどで、新庁舎は単なる市役所機能だけでなく、市民が交流できる、市民が気軽に立ち寄れる庁舎にしたかどうかという意見が出たことから、新たに追加する機能として検討していこうと考えている。
基本計画(素案)に記載した「展示ギャラリーや図書コーナーを兼ねた情報発信コーナーや 150~200 名が収容できる多目的ホール、市民が利用できる会議スペース」についても、ワークショップの意見を基にしており、基本設計の中で、実際に設置するかどうかも含め、機能ごとに意見を伺いながら検討していく。

【市 民】 建設工事費を含め約 108 億円という概算費用を出しているが、1 番デメリットがあるという C パターンも含め、上限 108 億円ということか。

【市】 上限が 108 億円ということではなく、A パターンで計算した場合の額。一般的な考え方での計算なので、面積や単価が変わると金額も変わる。
基本設計の中で一番よいパターンを検討し、それに合わせて事業費も考えていく。

【市 民】 せっかく宇部市はエコまちを目指すので、いかに新庁舎がエコにできているか

を追加したらどうか。太陽光発電など、エコまちの新庁舎を売り物にしたらいいのでは。

【 市 】 本日は説明できなかったが、基本計画（素案）の中にも「市役所のスマートビル化」について記載している。

平成 26 年 3 月に策定した「宇部市スマートコミュニティ構想」においても市役所のスマートビル化を打ち出しており、基本設計の中で方策を検討し、エコまちに似合うような庁舎をつくっていきたいと考えている。なお、スマートビル化を進めるにあたっては、ライフサイクルコストなどを比較しながら検討していく。